

志 望 理 由 書

～ 志望理由書とは～

1. なぜ「志望理由」が聞かれるのか？

大学や企業は、なぜあなたに「志望理由」を聞くのでしょうか？

それは、**意欲**のある学生を選びたいからです。動機がしっかりした人には、意欲がある。学校・企業側は、追跡調査などをして、意欲がある人は“学校に来てよい学問をする、職場に来てよい仕事をする”ということに自信をもっています。ですから、志望理由を書くにあたっては、細かいことよりも、まず、**読んだ人にあなたの意欲が伝わる**ということが大事です。

2. こんな志望理由書は通用しない！

ところが、いざ意欲を示そうとすると、どうしても次のような志望理由になってしまいがちです。

- ・ 英語が好きだから、外国語学部で学びたい。
- ・ 子どもが好きだから、保育士になりたい。
- ・ 人と関わることが好きだから、接客業に就きたい。

もちろん、「好き」というのは、志望理由として、とても大事な要件です。しかし、これを選ぶ側から見るとどうでしょう？ たくさんいる志望者のほとんどが、その分野が「好き」だから、その進路に進みたいと考えている。その中で、他と同じように「好きだから」という理由を挙げてくる志望者を、選ぶ側は、「特にこの人を選びたい」と思うのでしょうか？

志望理由書の目指すゴールは、たくさんいる志望者の中から、「特にその人を選びたい」と、選ぶ側に思わせることです。そのためには、「好き」という感覚だけでは、アピールとして不十分だと言えるでしょう。

3. 多角的に見る

では、どうすればいいのでしょうか？

「好き」だという感覚は大事にしつつも、もっと視野を広げて、客観的に、相手に伝わるように書いていく必要があります。次の3つの方向から多角的に考えることで、視野を広げていきましょう。

自分自身について考える

志望理由は、自分の具体的な「**経験**」に立脚して説明できなければなりません。

今まで生きてきた自分をふり返って、その学部・学科、仕事をめざすきっかけとなった「**経験**」は、人に説明できるようにしておきましょう。

ポイントは、**事実と考察**の2段がまえで説明することです。

× 事実：小学2年の時、このような尊敬できる先生に出会った。

→だから教師を目指したいと教育学部を選んだ。

これでは読み手は納得しません。事実から、あなたがどう感じ、何を考えたのか？

○ 事実：小学2年の時、このような尊敬できる先生に出会った。

→考察：そこから私は、教育についてこう考えた。

→だから私は、教師を目指したいと教育学部を選んだ。

というふうに。考察のところでは、できるだけ「**キーワード**」を提示するようにしてみてください。

行きたい学部・学科、就きたい仕事について考える

たとえば「法学部に行きたい」という気持ちだけあって、法学部では具体的に何を、どんなふうに学

んでいくのかを、そもそも知らない、調べていない、という人が多くいます。志望理由を書くときにつまずく人の多くは、それが原因です。**知らないのが原因**。知らないことに意欲はわきません。逆に、知れば知るほど興味は出てきます。

行きたい学部・学科、就きたい仕事の内容については、

- ・パンフレットやインターネットで調べる。
- ・オープンキャンパスなどで、先輩や先生に直接聞く。
- ・職場見学、就職相談会などで、企業の担当者に直接聞く。
- ・過去の小論文の入試問題を読む。(他の学校の志望学部の出題でも効果がある)

などの方法で調べ、人に説明できるようにしておいてください。ここでは、自分で行動を起こし、実際に調べることが大事です。「調べた」という行動が、**熱意や説得力となって文章に表れます**。

現在の社会について考える

たとえば、教育学部を目指すのなら、「教育」や「子ども」をめぐって、いまの社会はどうなっているのか？ 経済学部を目指すのなら、日本の経済はいまどうなのか？ 国際社会はこれからどうなっていくのか？

志望学部のメインテーマ、仕事(志望職種)の分野をめぐって、いまの日本社会、あるいは世界をみたとき、どうなっているのか？ 授業や本、新聞から得た知識も総動員して、次の3つをざっくりと言えるようにしてください。

- ・何がいちばん問題なのか？(現状の問題点)
- ・なぜ、そのような問題が起こっているのか？(原因・背景)
- ・理想の社会が実現できるとしたら、どうあればいいか？(ビジョン)

4. 自分の意志を示す

以上、きっかけとなった自分の経験、学部・学科あるいは仕事の具体的な内容、テーマをめぐる現代社会認識の3つがそろったら、そこから、「**未来に向けて自分はどうしたいか？**」という自分の「**意志**」を打ち出してください。

- ・このようなことを学びたい。
- ・このような仕事をしたい。
- ・人や社会にこのように貢献したい。

というように、**何をどうしたいか、具体的に打ち出す**のです。

5. なぜ、そこを選んだのか？

広い視野で考えながら、自分の意志を語れるようになったら、次に先方が気になるのは、「なぜ、うちに？」ということです。

他にもたくさん学校や企業がある中で、**なぜ、そこを選んだのか？**

キーになるのは、**相手のものの見方・考え方**です。つまり、大学等であれば教育方針、企業であれば事業方針や理念がキーになります。

- ・相手側はどんな方針・理念を持っているか？
- ・方針・理念を具体化する、どんな事例があるか？ 什么样的人材が必要とされているのか？
- ・自分はその方針・理念の、どこにどう共感するのか？

これも、自ら行動を起こして、調べておく必要があるでしょう。

志望理由書実例（看護学部）

現代の医療技術の高度化は数多くの問題を生み出しています。たとえば、脳死、遺伝子治療、医療ミスの続発は、医療技術の高度化と切り離して考えることはできません。この新しい波の中で、看護において私が大切だと思うことは、患者さんとの心の交流です。

そのように考えたのは、私の祖母が入院した際、実際に看護師の方と話をする機会を持てたからです。それは、現在のように医療が高度化すると、見知らぬ医療機器に囲まれて治療をする患者さんの心の不安は大変強く、それを解消するためにも、看護師は絶え間なく医療機器や技術について学び続ける必要がある、ということでした。学び続ける姿勢が、結局心の不安を取り除くことにつながる、というこの看護師の方の意見によって、単なる憧れで医療技術者を志していた私の安易さを反省させられました。

以上のような体験を踏まえて、私が実際に医療技術者として生きていくために学ぶべき学校をいろいろと調べた結果、貴校と出会うことができました。貴校は、現在の高度化する医療機器、設備に対する講座が充実しており、特に臨床看護学の講座内容に強く興味を感じています。また、一般教養における心理学、特に医療現場における患者さんの心理について学ぶことができる講座にも関心があります。この点を踏まえ、私は貴校で学んだ専門知識を活かし、医療現場で実際に病気やけがに苦しむ人の手助けができればと思います。そのために私は、貴校の豊富な講座を通して、看護の本質と技術を学びたいと考えています。

志望理由書実例（教育学部）

私が小学校の教師になりたいと思ったのは、小学校6年生のとき、1人の先生との出会いがあったからです。その先生は、「人を思いやること」の大切さを私に教えてくださいました。先生は、道徳の授業を大事にし、特にいじめについてはさまざまな話をされました。先生自身が、クラスメイトからいじめを受け、登校拒否や自殺願望をも引き起こしたという体験談を聞き、驚きとともに恐怖感を覚えました。このとき、涙ながらに語る先生の姿を見て、私も「人の心を思いやること」の大切さを教えられる教師になりたいと思いました。

近年、子どもたちを取り巻く社会環境も変化し、いじめや不登校などの問題も増加しています。私はそのような問題に全力で取り組める教師になりたいと思っています。

私が小学校の教師を志望するのは、小学時代が人生を形成していく過程で、大変重要な時期だからです。小学校では、基礎的な学問知識だけでなく、日常生活で必要とされる知識や、人としての正しい生き方も教えます。自分が教えた子どもたちが、教えられた知識や考え方を糧に人生を形成していくことに、非常に魅力を感じています。

私は、小学4年から9年間卓球をやっていて、部活動のほか、地域の夜間クラブでも練習してきました。そのため、後輩の小学生に卓球を教える機会が多く、自然と小学生と慣れ親しむことができ、そのなかで、小学校教師という職業が、自分に適しているということを実感するようになりました。

貴学を志望するようになったのは、貴学が前述の小学校の先生の出身校であり、その先生の勧めもあったからです。8月のオープンキャンパスに参加した際、少人数できめ細やかな指導を受けられること、1年次から子どもとかかわる機会があることを聞き、ぜひとも貴学で学びたいと決意しました。

入学後は、数学教育を専攻し、将来、子どもたちに教えることのできる数学の知識を増やし、子どもたちがよりよい人生を形成していくための手助けをしたいと考えています。それとともに、「人の心を思いやること」の大切さを子どもたちに伝えていくつもりです。中学時代に私が経験した生徒会活動や、カナダ・アメリカへ海外派遣された経験、また、長年続けてきた卓球を通して得た努力の積み重ねの重要性を、子どもたち一人ひとりの教育に生かしていきます。

この目標を達成するために、貴学への入学を希望し、貴学で一生懸命勉学に励みたいと思います。